

平成27年度 長野県立歴史館協議会 議事録

1 日 時 平成27年10月20日(火) 13時30分から16時00分まで

2 場 所 長野県立歴史館 会議室

3 出席者

○委員（五十音順） 小林正春委員、近藤博子委員、下村征子委員、高澤政江委員、竹内 誠委員長、中條智子委員、中村孝子委員、山浦 寿委員、山崎まゆみ委員、湯原儀芳委員

○県立歴史館 内堀館長、奥村副館長、青木学芸部長、原総合情報課長、大竹考古資料課長、丸山文献史料課長、寺内専門主事、遠藤専門主事、畔上専門主事、文化財・生涯学習課小池課長補佐

4 会議に付した事項

- (1) 常設展示室視察
- (2) 平成26年度事業実施状況等について
- (3) 平成27年度事業について
- (4) 常設展示室に係わる意見聴取

5 協議事項

○開会（事務局）

ただ今から、平成27年度長野県立歴史館協議会を開催いたします。
会議に先立ちまして、内堀館長から挨拶を申し上げます。

○歴史館館長あいさつ（内堀館長）

本日の協議会では2点審議をお願いいたします。

一点は歴史館事業についてであります。26年度の評価と27年度の計画をご審議いただきます。

もう一点は、来月で満21年を迎える常設展示室をどのようにしていくべきかであります。

当館は県内の博物館の中核的な役割を果たしていきたいと考えております。忌憚のないご意見をお願いいたします。

○協議会委員紹介（事務局）

昨年10月に委員の皆様も一部替わられましたので、配布してあります委員名簿により、ご紹介させていただきます。（委員紹介）

○職員紹介（事務局）

本日会議に出席している当館職員を紹介させていただきます。（職員紹介）

○会議成立報告（事務局）

委員総数は10名であります。本日は全員のご出席をいただいておりますので、長野県立歴史館管理規則第4条第3項の規定により会議が成立していることをご報告いたします。

○議長就任（事務局）

これから会議に入りますが、規定により会長が議長を務めるとされていますので、竹内会長に議長をお願いいたします。

○議 事

議長の竹内です。それでは議事をすすめさせていただきます。まず、協議事項の「（1）常設展示室視察」に先だて、視察の目的について内堀館長より説明があります。

○内堀館長

資料1は常設展示の「ねらい、構成」について記載したものです。常設展示は21年が経過しますが、これまで大きな改修、改装を行うことなく今日までできております。このため、「この21年間に研究が進み新たな知見・成果が出ていること。」、「戦後70年となりますが、近現代史をテーマとした展示がないこと。」、「来館者には小学生が多く、歴史学習の場として活用されており、また、学習指導要領が改訂され、歴史教育、近現代史の重視があげられていること。」などの取り巻く環境等も変わってきております。常設展示をご覧いただき、改修なども含めたご意見をいただきたいと思いますと考えております。

○竹内会長

視察の観点についての今の館長の説明に対して、ここで質問のみ受け付けたいと思います。いかがでしょうか。（質問なし）

【2グループにわかれ常設展示室視察 約25分間】

○竹内会長

協議事項の「（2）平成26年度事業実施状況等について」の審議に移る。資料2「平成26年（2014）度評価表」をご覧いただきたい。すでに自己評価と利用者評価は記入されているので、ここで協議会評価を行う。Aは目標を上回る成果を果たした、Bはほぼ目標を達成した。Cは目標に及ばなかった。Dは目標に遠く及ばなかったという評価だ。まず、「埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います」の項。自己評価はすべてBだが、意見を出していただきたい。

○山浦委員

「館設定研究テーマの調査・研究」について聞きたい。信濃史料、満洲移民等について、26年度にどのような取り組みを行ったか教えていただきたい。

○事務局

信濃史料のデータベース公開のほか、満洲移民史研究として大正中後期の長野県財政に関する論文を紀要に掲載しました。

○竹内会長

Aでもよくないか。

○事務局

目標が達成されている場合はBをつけることでお願いしたいと思います。

○山浦委員

満洲移民については、阿智村にできた満蒙開拓平和記念館の活動が際立っている。歴史館では取り組みがやや弱くなっているのではないか。

○竹内会長

縄文土器展は企画展なのか季節展なのか。

○事務局

館蔵品展（季節展）の扱いです。

○小林委員

企画展・季節展については観覧者数等について具体的な目標値が設定されていない。これでは、達成したかどうかの判断ができない。改善してほしい。

考古の資料保存処理講習会は40人の目標に対して29人なのでC評価ではないか。

○竹内会長

縄文土器展の集客数の目標設定はなかったのか。

○事務局

ありませんでした。

○竹内会長

Bでよいか。（異論なし）

○竹内会長

「史資料の保護・活用」についてはどうか。Bでよいか。（異論なし）

○竹内会長

「長野県の歴史をあきらかにする」についての評価をお願いしたい。まず事務局に聞きたいのは平成26年度の目標値はH23を基準としており、対前年度比ではないということか。

「常設展は5%増」という記述はどういう意味か。

○事務局

平成23年度の数字の5%増を目標としましたが、実際には11%減だったということです。

○竹内会長

常設展の入場者数が資料2と資料3で違っている。資料2は38.295人で資料3は39.897人である。どういうことか。

○事務局

転記する際にミスをしました。資料2の38.295人が正しい数値です。

○竹内会長

昨年度の協議会で「満足度7割」は目標値としては低い」との指摘があったが、さきほど事務局に聞いたら、今年度までは平成23年度に定めた基準に従うとのことである。

○山浦委員

委員として関心をもつのは常設展と企画展である。博物館が盛り上がるのは研究と普及なのだから、自己評価のBよりもう少し厳しい評価をつけるべきではないか。

添付されている「県立歴史館観覧者数等の推移」を見れば、常設展観覧者の非常に低迷ぶりは明らかである。常設展に人気がないのは明白だ。企画展・季節展についても、私は「利用者評価」の欄に記されている利用者アンケートの文言に近い感想を持っている。

評価表を作ったり、評価をしたりすることも大事だろうが、企画展・常設展の充実をもっと重視して欲しい。Aとは言えない。

○下村委員

小学校の歴史館見学の感想からは、勉強になったというものが多い。

常設展をリニューアルしてほしい。もう少し新しいものを入れると良い。

速報展や土器展の出前講座は良いことだと思う。常設展示室内にも体験できるコーナーのようなものがあると良い。

○竹内会長

常設展をリニューアルするというのであれば、ここでAの評価はできない。

博物館の王道は常設展、華は企画展。これだけ常設展の観覧者が減っているのは危機的な状況だ。

○湯原委員

小学校利用の実態を教えてほしい。

○事務局

平成26年度の県内小学校の来館数は200校です。これは県内小学校全体の53%です。

○小林委員

歴史館の努力だけで小学校の来館数を増やすのは無理だろう。県教委は学校教育も所管している。見学旅行に位置づけるなど、県教委としての取り組みがあってしかるべきではないか。

歴史館としても、小学校向けのアンケートなどをすべきだ。常設展示は、長野県の歴史を知るという観点であれば良くできていると思う。「20年経ったから」という理由でリニューアルを考えるのはいかなものか。その必要はないと思う。

○事務局

小学校向けのアンケートは実施しています。それによれば、南信の学校については時間的問題が大きな制約になっています。

○小林委員

理解した。しかし、県教委としてできることはあるだろう。

○竹内会長

Bでよいか。（異論なし）

○竹内会長

「生涯学習支援」についてはどうだろうか。意見を伺いたい。

○山浦委員

全体としてはAの評価がふさわしいと思う。歴史館職員の講座は各地で評判がよい。ただし、ブックレットについては誤りが目立つ。残念だ。

○湯原委員

歴史館職員が地域に出向いて行う講座は質が高く評価できる。地元としてもこのような講座を出前してくれるのはありがたい。

○竹内会長

Aとしたい。（異論なし）

○竹内会長

「学校教育支援」についてはどうだろうか、意見を伺いたい。

○下村委員

教員研修は初任者研修を指しているのか。

○事務局

御指摘の初任者研修のほか、教育センターが実施する10年研修、信州大学が実施する教員免許講習、高校が独自に行う職員研修なども受け入れています。毎年250人くらいの教員が歴史館で研修を受けているという状況です。

○下村委員

教員が歴史館のよさを知れば、南信からでももっと来館する学校が増えるのではないか。

○事務局

そのような期待を込めて、教員研修には丁寧に対応しています。

○下村委員

「歴史館たより」は学校に配布しているのか。

○事務局

配布しています。企画展のポスター等も配布しています。

○山浦委員

私が関係している歴史団体（信濃史学会）についてお話したい。かつて信濃史学会は小中高の教員が多く会員になっていたが、退会が相次いでいる。五年ほど前までは会員となっている学校もあったが、現在はゼロである。歴史や史学会への教員の関心が薄れている。教員の積極的参加を呼びかけたいと考えている。歴史館も教員研修に力を入れてほしい。

○下村委員

たしかにそうだ。

○山浦委員

下村委員のいらっしゃる上小地区は県内ではまだ活動が盛んな方である。

○中村委員

学校見学が増えない背景には、実施する学年や実施する時期といった制約が学校側にあり、融通が効きにくいという事情もある。また、社会科以外に学ぶべきものや行事が増えているという事情もある。

ただ、歴史館職員の学校向け解説はよいが、展示は子供たちにはわかりにくい。教育課程も時代とともに変わっている。人物史中心の授業になっており、人物が登場しない歴史館の展示はなじみにくい部分がある。展示に工夫はできないか。

職場体験の受け入れ実績が低いのは、中学校側の事情が大きいのでやむを得ない。

南信の利用が低いことについては、歴史館の他に一緒に回れるコースを考えるとよいが、なかなか難しいだろう。

○小林委員

全体の評価としてはAに近い気がするが、県教委に課題を投げかけるという意味で、あえてBでどうか。（異論なし）

○竹内会長

「歴史情報の提供」は自己評価でAがついている。アクセス数も増えているのでAでよいのではないか。（異論なし）

○竹内会長

「参加して楽しめる場」も数字は良い。Aでよいか。（異論なし）

○竹内会長

「県民が参加した管理運営」は特徴的なものがない。Bでよいか。（異論なし）

○竹内会長

時間が大分超過している。「平成27年度事業」について事務局より手短かに説明願いたい。

○事務局

資料3「平成27年（2015）度県立歴史館の活動計画（目標）」と資料4「県立歴史館の今後のあり方に対する取り組み」を説明。

○竹内会長

ただいまの説明について意見をいただきたい。

○小林委員

「連携」と「出前」のポイントは、市町村博物館との連携ということか。

○事務局

学校や、八十二文化財団、長野県カルチャーセンターなども含んでいます。

○山浦委員

「県立博物館」の文言には違和感がある。当館は「歴史館」である。博物館法に基づく「博物館」ならば、美術館や動物園も含まれる。「歴史館」であるということをしっかり認識してほしい。設立当初の理念に、埋蔵文化財センターの役割や公文書館的役割も入っていたし、ただモノを並べればよいのではなく、調査研究が原点である。

今年度の2つの企画展（「長野県民の1945」・「樹木と人の交渉史」）には違和感があった。これが歴史館の展示なのかという気がした。「長野県民の1945」は全県で資料を発掘したことはよかったかもしれないが、生煮えの企画展だったと思う。大林作三氏の「終戦の記」は事前にしっかりした研究がされていたのでよかったが、従軍看護婦のコーナーでは資料の検証が出来ていなかった。誤った内容の展示であった。また、上原良司の特集も視点が定まっておらず、研究になっていなかった。歴史館なら、上原がクローチェに心酔していく背景を掘り下げるような研究を行うべきではなかったか。

歴史館の予算や職員が減っているのはわかる。だが、「長野県民の1945」は企画展として生煮えだった。安曇や下伊那の人は「なんだこの程度に扱われたのか」と感じたのではないか。

また、白馬村のレスキューは長野市博がやっている。歴史館としては動きがない。

先ほども申し上げたように、評価表を作ったり、評価をすることが大切なのではなく、歴史館にふさわしい活動を検討し、実施してほしい。

○竹内会長

山浦委員の発言は、歴史館のあり方に関して、原則にもとづく厳しいご指摘だと思う。

○竹内会長

最後に「常設展示室」に係る意見をお聴きしたい。自由に発言をしてほしい。

○小林委員

展示のコンセプトはまだ耐えられると思うが、内容に問題がある。「信州の位置」といった観点がどこにも示されていないのは致命的ではないか。風土や環境がわからなければ歴史は理解できない。

長野県全部が博物館であると考え、歴史館はそのインフォメーションセンターとして行動したらどうか。そのためには、人と予算が必要だ。

○下村委員

「長野県民の1945」に関して、さきほど山浦委員から内容が不足しているとの意見もあったが私は感動した。この成果を常設展に入れていったらどうか。

また、さきほど学芸部長の説明にあったように、「あり方検討」に対応した当面の取り組み

課題の一つとして、70年企画展の出前講座を行うというのは大いに賛成である。

○山浦委員

常設展は「信州の風土と暮らし」という観点で地域を語っており、非常によくできた展示だが、このままでは小学生の関心を惹けない。抽象的である。人物や建物などの具象的なものを出すべきだ。

展示室を明るくすることも大切か。

○中村委員

戦争体験者などからの聞き取りによる証言も、常設展の近現代のコーナーの中で視聴できるようにすると良いのではないか。

○竹内会長

予定時間を大幅超過してしまいましたが、本日の協議事項を終了させていただきます。

○閉会挨拶（内堀館長）

本日いただいた貴重なご意見を今後の館運営に活かしてまいりたいと考えておりますので、今後ともご助言・ご協力をお願いします。

○閉会（事務局）

以上をもちまして協議会を閉会いたします。